

編集委員会企画 変わりつつある日本小児整形外科学会とこれから

乳幼児股関節脱臼健(検)診体制再構築に向けた活動とこれから

信濃医療福祉センター 整形外科

朝 貝 芳 美

Dept. of Orthop. Surg., Shinano Handicapped Children's Hospital

Key words

発生予防 : Generating Prevention,

乳児股関節健診 : Early Detection of Developmental Dysplasia of the Hip

〒 393-0093 : 長野県諏訪郡下諏訪町社 6525-1

Tel : (0266)27-8414

FAX : (0266)27-7936 asagai@shinano-iryo.or.jp

日本小児股関節研究会 乳児股関節健診あり方検討委員会(2012~2018年)

委員長 : 朝貝芳美, 委員 : 大谷卓也, 北 純, 品田良之, 薩摩眞一, 服部 義, 二見 徹

以下の報告以降の活動について報告する.

朝貝芳美ほか : 日本小児股関節研究会 乳児股関節健診あり方検討委員会報告. 日小整学会誌 23(1) : 223-226, 2014

1. 整形外科学会関連

「整形外科医のための乳児股関節二次検診の手引き」と「乳幼児股関節脱臼紹介可能施設 : 三次施設」に関して日本整形外科学会(以下, 日整会)と日本小児整形外科(以下, 日小整)学会理事会の承認を受け, 日整会 HP 会員専用ページに掲載した.

日整会広報室ニュース 99号, 100号に関連記事を掲載した.

日本整形外科勤務医会 HP と日小整学会 HP 公開資料のリンクを行った. 「乳幼児股関節脱臼紹介可能施設 : 三次施設」は全国を7ブロックに分け, 各ブロック担当者の推薦によりリストアップした. 今後, 担当者の推薦により施設を追加する予定.

整形外科卒後研修用ビデオシリーズⅣ No.37「発育性股関節形成不全の予防と検診の実際」を制作した.

各地域に key person を指名して, 地域の実情に合った二次検診体制の再構築を目的に, 小児整形外科医を 112人推薦した.

参考資料として二次検診紹介状様式を日小整学会 HP 公開資料に掲載した.

2. 小児科関連

日本小児科学会 HP 会員のページにナレーション入りの「乳児股関節健診の再構築に向けて」を掲載し, 「乳児股関節健診推奨項目と二次検診への紹介」を周知した.

日本小児連絡協議会(四者協)健康診査委員会に委員として参加し, 乳児股関節健診の再構築について協力をお願いした. 日本小児科学会理事から二次検診紹介例が増加して整形外科医の受け入れ態勢が整っていないならば協力はできないとの発言があった.

乳幼児股関節健診は股関節を扱うので乳幼児股関節検診とすべきとの意見が小児科医からあった。小児科医からの要請で乳幼児股関節健診としており、一次健診、二次検診と使い分けていることを説明した。

2019年公益社団法人日本小児科学会健康審査委員会委員。

3. 産科関連

日本産科婦人科学会理事長、日本産婦人科医会会長そして日本助産師協会会長宛に日整会理事長と日小整学会理事長名で予防パンフレットのHP掲載と全国産科で配布・周知を依頼し、木下勝之日本産婦人科医会会長から2018年1月17日HP掲載の返事があった。

4. 国への対応

日小整学会 Multi Center Study 委員会の結果を踏まえて、2014年4月23日厚生労働省(以下、厚労省)雇用均等・児童家庭局母子保健課小倉加恵子課長補佐と面談し、2つの研究班を紹介され、東京大学小児科岡明教授、あいち小児保健医療総合センター山崎嘉久先生に直接お会いし、異例ではあったが途中から研究班に加わった。

厚労省母子保健課との面談

2015年9月 一瀬課長。

2017年7月 神ノ田昌博課長、梅木和宜課長補佐。

2018年9月 平子課長、梅木課長補佐。

2019年4月 小林秀行課長、梅木課長補佐。

2019年4月4日 日本医療機能評価機構河北博文理事長と自民党厚生労働部会長小泉進次郎議員と面談し、乳幼児股関節健診の現状と課題について説明した。

日本医療機能評価機構が立ち上げた「日本の医療をデザインする勉強会」で2019年5月10日「成育期の医療デザインを考える—障害児医療、先天性股関節脱臼を中心に—」を提案した。2か月に1回勉強会を開催し、約1年で国への提言をまとめる予定。

成育基本法

2018年12月26日小崎慶介先生と朝貝が自見はなこ参議院議員と安藤たかお衆議院議員に面談した。同年12月8日に成立した成育基本法の基本施策の中に、障害児、特に肢体不自由児療育や乳幼児股関節健(検)診の具体的施策を入れることが重要となる。2019年7月30日厚労省担当者(医療課、母子保健課、障害福祉課、企画課)と具体的施策を協議した。

2019年10月母子保健課から連絡があり、母子健康手帳に乳幼児股関節脱臼予防パンフレット(日小整学会HP公開資料)のURLが掲載されることになった。

2019年11月23日、大阪の日小整学会学術集会で成育基本法に関して自見議員が講演した。大谷理事長から日小整学会の成育基本法基本方針への要望を自見議員に直接説明し、乳幼児股関節健診に関する内容を一番に要望した。

5. 厚労省研究事業

「乳幼児健康診査の実施と評価ならびに多職種連携による母子保健指導の在り方」(研究代表者あいち小児保健医療総合センター山崎嘉久先生)で2015年「標準的な乳幼児期の健康診査と保健指導に関する手引き」のなかで保健師向けに「乳幼児股関節脱臼の予防と一次健診方法」を周知した。

「乳幼児の疾患疫学を踏まえたスクリーニング及び健康診査の効果的実施に関する研究」(研究代表者東京大学小児科岡明教授)は2013年から2年間で終了するが、異例の対応として2014年度から研究班に参加し、報告書は2年分を研究協力者として国へ報告した。

2015年から3年間の研究班が立ち上がり、「幼児の疾患疫学を踏まえたスクリーニング等の効果的实施に関する研究」(研究代表者東京大学小児科岡明教授)分担研究者として3年間国へ提言する機会が得られた。1年目として「乳児健康診査における股関節脱臼一次健診の手引き」を作成した。この冊子の配布について厚労省母子保健課に相談したところ厚労省が依頼して作成した冊子ではないので配布には関知しないとの返事だった。2015年9月に一瀬課長と面談し、その後田中課長補佐から厚労省HPに掲載し、各地方自治体に事務連絡するとの連絡があり、その際に冊子には学会の名前が入っている必要があるとのことだったので、日整会理事会と日小整学会理事会で学会名使用の承認を受けた。2015年11月29日第2回健康審査委員会で日本小児科学会、日本小児科医会、日本小児保健協会、日本小児外科学会が「乳児健康診査における股関節脱臼一次健診の手引き」の周知に協力していただけることになり、厚労省、健やか親子21、日整会、日小整学会、日本小児外科学会などのHPに掲載された。2015年12月2日厚労省から都道府県などの母子保健主管部を通して市町村へ事務連絡された。冊子は3万500冊印刷し、岡教授に研究費から郵送費を負担していただいただけでなく、全国の市町村や関連団体などに手作業で配布していただいた。後日、事務連絡という対応は、厚労省として異例の対応であったことが分かった。

田中課長補佐に母子健康手帳に開排制限の有無だけでなく「予防と早期発見」について掲載を依頼したが、スペースがなく副読本であれば掲載可能との話があり、2016年4月から副読本に掲載され、自治体を通して配布されることになった。

2016年度は「先天性股関節脱臼予防と早期発見の手引き」冊子を作成し、日小整学会と日整会理事会の承認を受け、全国の市町村に10冊ずつ郵送した。その際に日小整学会HP公開資料をお知らせし、予防パンフレットの出生届時や新生児訪問時の配布と「先天性股関節脱臼予防と早期発見の手引き」や*アニメーション動画の活用依頼の文章を同封した。

2017年度は「乳児健康診査における股関節脱臼二次検診の手引き」を作成し、前年度と同様、日小整学会と日整会理事会の承認を受け、全国小児整形外科key personに150冊ずつ郵送した。

乳児健康診査における股関節脱臼一次健診は実施している市町村や医師によりスクリーニング方法などに違いがあり、標準化したスクリーニング方法や多職種連携による母子保健指導が求められ、国の対応として健診の標準化の目的で、2017年度「子ども・子育て支援推進調査研究事業」が採択され、単年度で標準的な健診マニュアルを作成することになった。

2015年国の健診項目改定の時は、乳児健診のスクリーニング方法として「開排制限とclick」の2項目のみで項目数は増やせないとのことだったが、近年、小児科を中心に乳児股関節脱臼に対する関心が高まってきており、二次検診紹介推奨項目の導入に向けて活動した。

2017年7月30日 第2回健康審査委員会の際に、「2017年度子ども・子育て支援推進調査研究事業費」において「乳幼児健診身体診察マニュアルおよび保健指導マニュアル」作成事業の承認が報告された。

2017年11月26日 第3回健康審査委員会の際に、身体診察マニュアルの執筆内容が検討され、乳児股関節脱臼だけでなく脊柱胸郭変形やO脚などの整形外科関連疾患についても作成するように要請があった。

2018年1月28日 健康審査委員会編集委員会で身体診察マニュアルに二次検診紹介推奨項目の導入が決まった。

2018年厚生労働科学研究健やか次世代育成総合研究事業「身体的・精神的・社会的に健やかな子どもの発育を促すための切れ目ない保健・医療提供のための研究」日本版Bright Futures班(研究代表者 東大小児科岡明教授)が採択され、朝貝が分担研究者となり健診ハンドブックのなかで、乳幼児から学童思春期までの整形外科関連の健診指針を作成している。

6. 地方自治体の対応

北海道庁から道内地方自治体に母子健康手帳配布の際に「妊産婦への脱臼予防」パンフレットを配布すると連絡があり、鳥取県、盛岡市などからもパンフレット使用願いがあった。東京都杉並区では二次検診紹介推奨項目を2016年11月から導入したとの連絡があり、練馬区でも2015年から導入している。薩摩先生から神戸市では2014年に二次検診紹介推奨項目を導入し、2019年現在まで遅診断例はないと報告があった。北海道札幌市では早期発見のアニメーション動画が産婦への説明に導入された。

7. 広報活動

- ・ 乳幼児股関節脱臼に関する読売新聞記事を日小整学会 HP に掲載。
- ・ ラジオニッケイ 2015年1月14日「乳幼児股関節健診の再構築と二次検診紹介推奨項目」を放送。
- ・ 2015年5月21日 第88回日整会学術総会教育研修講演「発育性股関節形成不全予防・検診の現状と対策」を講演。
- ・ 2015年4月共同通信社医療新世紀に記事を掲載、全国各地の新聞に掲載。
- ・ 東京都子育て応援ファンドモデル事業で一般向けの早期発見・予防のアニメーション動画を作成し、YouTubeに掲載。「赤ちゃんの病気、股関節脱臼」で検索できる。
- ・ 2015年6月9日 NHK あさイチ「ミニ企画乳幼児股関節脱臼」が放送。
- ・ 2016年5月4日 日本テレビ「相席よろしいですか？」で股関節脱臼について放送。
- ・ 2016年5月11日 日本整形外科勤務医会総会で「乳児健康診査における股関節脱臼一次健診の手引き」の周知に関して講演。
- ・ 2016年5月13日 第89回日整会学術総会 シンポジウム「難治性発育性股関節形成不全の対策—予防と早期診断・治療—」が企画。
- ・ 母子衛生研究会からの依頼で、全国7か所で母子保健相談室保健師向けの講演を行い、追加で神奈川県でも講演が行われた。杉並区や東京都医師会でも一次健診の医師向けに講演会が開催。
- ・ 2017年8月14日～18日 テレビ信州 奥様はホームドクター「先天性股関節脱臼は予防できる」が放送。
- ・ 2018年4月22日 第121回日本小児科学会学術集会「モーニング実践講座7」「乳幼児健康診査における整形外科関連疾患に対する一次健診スクリーニングの実践」を講演。
- ・ 2019年5月23日 第56回日本小児外科学会学術集会が久留米で開催され、特別企画：「成育期の医療デザインを考える—先天性股関節脱臼検診や肢体不自由児療育の現状から—」を講演。
- ・ 2019年11月17日 第72回九州小児科学会が佐賀で開催され、「乳幼児股関節一次健診方法の標準化—遅診断例ゼロへの取り組み」を講演。
- ・ 日本小児保健協会・日本小児科医会・日本小児期外科系関連学会協議会協賛「乳幼児健診を中心とする小児科医のための研修会 Part III—歩進んだ乳幼児健診を目指してが、2017年6月東京、10月大阪、2018年6月東京で開催され、「見逃しに注意；小児整形外科医からのアドバイス」を講演。Part IVはテーマが「乳幼児健診マニュアルに基づく診察と対応」となり2019年3月東京、2019年11月大阪で開催、2020年5月東京で開催される予定。

8. 関連学会、関連団体への投稿

- ・ 朝貝芳美：先天性股関節脱臼の発生予防と乳幼児股関節健診の再構築。小児保健研究 73(2)：161-164, 2014。
- ・ 朝貝芳美：先天性股関節脱臼の発生予防と乳幼児股関節健診の再構築。助産師 68(2)：28-31, 2014。
- ・ 朝貝芳美：先天性股関節脱臼の診断のポイントと予防—歩行開始後に診断されたり、治療に難渋しな

いために一, 日本産婦人科医会報 66(5) : 8-9, 2014.

- ・朝貝芳美：古くて新しい疾患—乳児(先天性)股関節脱臼—. 小児保健研究 75(2) : 149-153, 2016.
- ・朝貝芳美：発育性股関節形成不全の発生予防と乳児股関節健診の再構築. 日整会誌 90 : 237-244, 2016.
- ・朝貝芳美：特集 研修医のための乳幼児健診のすすめ II 分野別健診のポイント 乳児股関節脱臼の新しいスクリーニング方法. 小児科診療 5(43) : 635-640, 2016.
- ・朝貝芳美：股関節脱臼の予防と発見 月刊母子保健 第 684, 4月号, pp.6-7, 2016.
- ・朝貝芳美：先天性股関節脱臼. 専門医の整形外科外来診療. 編集 大川淳, 田辺秀樹, 富士武史. 南江堂, 330-332, 2017.
- ・薩摩眞一：先天性股関節脱臼と発育性股関節形成不全. 臨整外 52(7) : 664-669, 2017.
- ・朝貝芳美：先天性股関節脱臼の予防と早期発見. チャイルドヘルス 20(7) : 46-48, 2017.
- ・朝貝芳美：乳児股関節脱臼. 私の治療 2017-18 年度版 監修 猿田享男, 北村惣一郎. 日本医事新報社, pp.1603-1605, 2017.
- ・朝貝芳美：特集 Well Baby のための乳幼児健診 乳幼児健診の「質」を高める—専門医との協働—整形外科. 小児内科 50(6) : 933-936, 2018.
- ・朝貝芳美：発育性股関節形成不全. 小児疾患の診断治療基準第 5 版. 「小児内科」「小児外科」編集委員会共編, 東京医学社, 東京, 878-879, 2018.
- ・整形外科関連執筆担当者 朝貝芳美：乳幼児健康診査身体診察マニュアル. 平成 29 年度子ども・子育て支援推進調査研究事業
- ・朝貝芳美：特集 助産師が知っておきたい 2 週間健診 & 1 か月健診での母子支援 股関節のチェック. 助産雑誌 73 no.6 : 454-457, 2019.
- ・朝貝芳美：先天性股関節脱臼の早期発見と予防. 小児科医療定期情報誌「そんりーさ」23 号 pp.11-12, 2020 投稿中.
- ・朝貝芳美：特集 日常診療に役立つ新生児外科疾患の知識 股関節脱臼. 周産期医学 50(2), 2020 投稿中.
- ・朝貝芳美：特集 課題山積のわが国の乳幼児健診 発育性股関節形成不全・脊柱側弯. 日本医師会雑誌, 7月号, 2020, 投稿中.

9. 今後の課題

- ①一次健診スクリーニング方法の標準化とその周知.
- ②標準化された一次健診フォーマットによるビッグデータの収集と分析.
- ③新生児訪問時の予防パンフレット配布などにより早期からの予防を徹底し, 欧米で行われている早期からの複数回のスクリーニングと超音波診断の導入を検討.
- ④整形外科医への教育の充実と, 日本臨床整形外科学会との協力による地域の実情に合った二次検診体制の再構築.
- ⑤三次施設の拠点化と機能の充実.

2018 年から小児股研の「乳児股関節健診あり方検討委員会」は一般社団法人 日小整学会の「健診委員会 担当理事大谷卓也先生, 委員長服部義先生」に引き継がれ活動を継続する.

日小整学会 HP 公開資料

■乳児股関節健診推奨項目

■乳児股関節二次検診紹介状

■整形外科医のための乳児股関節二次検診の手引

■乳幼児健康診査身体診察マニュアル



■先天性股関節脱臼予防パンフレット

■平成 27 年度「乳児健康診査における股関節脱臼一次健診の手引き」

■平成 28 年度「先天性股関節脱臼予防と早期発見の手引き」

■平成 29 年度「乳児健康診査における股関節脱臼二次検診の手引き」

■乳児股関節脱臼を見逃すな 診断遅れで治療難航 健診体制の再構築を 共同通信社



■先天股脱予防・早期発見の一般向けアニメーション動画